

# 道徳的諸価値への気付き ～特別の教科道徳 授業実践～

## 1年道徳科実践報告「くりのみ」(光村図書)

本実践では、自分の利害を優先してしまったときのきつねの気持ちと親切に行動したときのうさぎの気持ちを対比させながら、主にうさぎの気持ちに焦点を当てて「思いやり、親切」について考える学習を展開した。そうすることで、教材「くりのみ」を通して、相手のことを親身になって考えた行動が相手や自分の喜びとなることに気付かせながら、「親切、思いやり」に関する価値について考えさせた。

### 1. 導入における共有化

導入では、「親切って、どんなこと？」に関する自分の考えをもつことで、本時のねらいへと迫り、終末では個々の「親切」に対する捉えの変容に気付かせた。そして、たくさん見付けたどんぐりを独り占めしようとしてしまったきつねの気持ちや、やっとの思いで見付けた2つのうちの1つのくりのみを差し出すまでのうさぎの葛藤を共感的に捉えさせるために、本教材の背景にある「冬の厳しさ」について全体で共有したり、きつねやうさぎがどんぐりやくりのみを見付けた場面で動作化を取り入れたりすることで教材の設定を確認した。

導入段階での価値に関する考え「親切って、どんなこと？」

- ・やさしくしてあげること。
- ・やさしいところをもった人。
- ・人をたすけること。
- ・でも、しんせつにしたい気持ちはあるけど、できないことがある。

きつねやうさぎが食べ物を見付けたときの様子を動作化で確認した。

食べ物を探しに出掛けた、きつねとうさぎの気持ち

「きつねとうさぎは、どんな気持ちで食べ物を探しに行ったのですか。」

- ・おなかがすいたなあ。見つかるといいなあ。
- ・だって、あきよりふゆは、たべものを見つけることがむずかしいよ。

### 2. 役割演技

本時の中心発問「うさぎさんは、どんなことをしばらく考えていたのですか。」では、児童の道徳的価値の理解をさらに促すために、うさぎがしばらく考えている場面で役割演技を取り入れた。役割演技では、演じるだけでなく、役割演技後に演じた児童が表現した意味について考えることで「思いやり、親切」に関する道徳的価値を実感的に理解できるようにした。そして、きつねとうさぎの思いに迫る補助発問をしていくことで、「思いやり、親切」の価値について考えさせた。



〈 本時の板書 〉

中心発問「うさぎさんは、どんなことをしばらく考えていたのですか。」



- ・きつねさんがかわいそう。
- ⇒おなかがすいてるとおもう。
- ⇒なんにも、もっていない。

- ・1つあげようかなあ。
- ⇒きつねさんは、0こだから。
- ⇒きつねさんが、こまるなあ。

- ・あげようかな。でも、だいじなものだからなあ。
- ⇒たべものは、見つけることがむずかしいから。
- ⇒うさぎさんは、このあと、くりのみがみつようだから。
- ・しんせつだなあ。やさしいなあ。
- ・気持ちがよくなったとおもう。
- ・うさぎさん、ありがとう。
- ・じぶんもうれしくなったとおもう。
- ・きつねさんを見て、あんしんできたとおもう。
- ・じぶんもスッキリしたとおもう。

補助発問①「きつねさんの涙を見て、うさぎさんはどんな気持ちだったでしょう。」

補助発問②「では、うさぎさんは、どんな気持ちだったでしょう。」

### 3. 振り返り

終末では、振り返り活動を行うことで、導入時の自分の考えと、終末での自分の考えを比べ、児童それぞれの「思いやり、親切」に対する考えの自覚を促していった。そして、いつでも相手の立場を理解したり、相手の考えを受け入れたりすることの難しさに気付かせていった。また、「親切な行動は大切だ。」という「分かりきっている」表面的な内容に留まらず、親切な行動とは、「相手のことを親身になって考え行動すること」や「相手の喜びとなること、さらに自分自身の喜びとして受け入れることができる」といった道徳的価値に気付かせた。

〈 道徳ノートへの記述 〉

- ・ともだちだけがうれしくなるのではなく、ともだちをたすけたらじぶんもひとあんしんでうれしくなることがわかりました。
- ・ともだちによるこんでもらえたり、じぶんもともだちによるこんでもらえてうれしくなったりすることだとわかりました。
- ・あいてもじぶんも気持ちがよくなるし、あいてもじぶんもえがおになるんだとわかりました。
- ・しんせつは、じぶんもあいてもうれしくなることなんだと気づきました。
- ・じぶんもスッキリするし、あいてにとってもいいんだなあとわかりました。



### 成果と課題

本実践では、教材「くりのみ」を通して、相手のことを親身になって考えた行動が相手や自分の喜びとなることに気付いていく児童の様子が授業の中で見られた。導入段階で、本教材の背景について動作化を交えながら確認したことで、自分の利害を優先してしまったきつねの行動を批判的に捉えるだけでなく、共感的に受け止めている児童が多かった。また、中心発問については、児童が話し合う姿から、うさぎがやっとの思いで見付けたくりのみを差し出すことが親切な行動として簡単にできたものではないことについて考えを深める時間とすることができたと考える。特に、役割演技では、児童が意見を交流する様子から、演じた児童が表現した意味について、演じた児童だけでなく、周りにいる児童が役割演技で表現した意味について考えることができ、「思いやり、親切」に関する道徳的価値の理解につながっていたと考える。意図をもって役割演技を取り入れたことで児童が自分との関わりで考えながら理解を深めていくことができた。

一方で、本実践の討議会で、1年生の発達段階を考えると本時の目標に難しさがあるのではないかという助言を頂いた。児童の発表の様子や振り返りの記述からも「自分」の気持ちに対する内容が多く見られたが、どこまで実感を伴うものになっていたかは分析していく必要がある。今後も、より発達段階を考慮し、児童が道徳的諸価値の理解を深めていけるよう研究に努めていく。

参考文献

- (※1) 学びの「エンゲージメント」 2020年 図書文化 櫻井 茂男
- (※2) 教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価 「見方・考え方」をどう育てるか 2019年 日本標準 西岡 加名恵 石井 英真
- (※3) 体験的な学習「役割演技」でつくる道徳授業 2017年 明治図書 早川 裕隆